

三陸鉄道リアス線
1・2・3で

123万人利用促進運動



「さんてつくん」

〇「1・2・3で123万人利用促進運動(1・2・3鉄運動)」とは？

三陸鉄道リアス線の開通に伴い、

1、地元市町村 2、オール岩手 3、県外・国外からの誘客 により、
三陸鉄道リアス線の利用促進を行い、三陸鉄道を支えていこうという運動です。



①地元市町村
(沿線自治体)

②オール岩手
(県内陸自治体、
隣接自治体)



③国内外
からの誘客
(いわて花巻空港、
宮古・室蘭フェリー等)

〇なぜ「1・2・3鉄運動」をやるの？

三陸鉄道リアス線は、震災後8年の月日と、たくさんの人の思い、願いを経て、開通しました。

しかし沿線人口の減少など厳しい課題はたくさんあります。

そうした中、三陸をつなぐ三陸鉄道を
未来に残すためにオール岩手が一丸とな
って支えていく必要があります。



岩手県民124万人
皆さんが1年に1回、
三陸鉄道をご利用い
ただけることを楽しみ
にしております。

〇どんなことに取り組んでいくの？

沿線市町村、隣接自治体を含めたオール岩手で乗車機会の創出を行います！

(例)

- ・三陸防災復興プロジェクト2019、RWC2019™釜石大会等の沿線イベント開催時の三鉄利用の奨励
- ・学校行事、子ども会行事での利用の奨励
- ・貸切列車の活用方法の提示
- ・三陸地域での防災教育実施(内陸市町村)
- ・三陸防災復興プロジェクト2019、RWC2019™釜石大会のレガシーを受け継いだ取組への準備

活用！！



- ・三鉄協事業
- ・キャラバン隊
(普及啓発活動、
協力要請活動)
- ・大型イベント
- ・観光キャンペーン

岩手日報 19. 7. 10

絆まつり 三鉄利用を キャラバン隊が来社



おそろいの法被を着て三陸鉄道の利用促進をPRするキャラバン

三陸鉄道の中村一郎社長らは9日、いわて絆まつりin宮古2019（実行委主催）の開催に合わせ、盛岡市内丸の岩手日報社を訪れ、三陸鉄道の利用を呼び掛けた。

三陸鉄道をPRするキャラバン6人とマスコット「さんてつくん」が訪問し、東根千万億社長と懇談した。同まつりは13、14の両日、宮古市で開催。県内33市町

村の34団体がさんさ踊りや神楽、鹿踊りなどを披露するほか、仙台市から仙台すずめ踊りが特別出演する。沿岸市町村のグルメ12ブースが出店する「三陸グルメまつり」など多彩な催しも予定する。

三陸鉄道と県は、リアス線の年間利用者数123万人を目指し、企画列車の運行やキャンペーンに力を注ぐ。中村社長は「まつりを機に全国の皆さんに三陸においでいただき、三鉄に乗り組んでいただけるよう取り組みたい」と語った。